資料1－3

ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

１．令和７年度ヒグマ WG の開催概要

・第１回会議　令和７年７月 31 日（木）オンライン開催※

※7/30(水)にカムチャツカ半島付近で発生した地震に伴い発令された津波警報の影響を受けてオンライン開催とした

２．主な議事内容

知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理の進捗状況やヒグマの出没状況を踏まえ、昨年度、総個体数及び問題個体数(軋轢の状況)に応じた対応策を定めたヒグマ管理のフレームワークを作成し、問題個体の発生を防ぐための取組(人間側の行動抑制・侵入防止対策)を継続することに加えて、ヒグマの生息数及び地域社会との軋轢状況を踏まえ、問題個体管理と個体数管理を併用した順応的管理を実施するという方針についてヒグマ WG にて合意が得られ、知床ヒグマ管理計画の改定を行った。

令和 10（2028）年度より開始する第 3 期管理計画の策定を見据えて、現時点での課題を整理し、その課題解決に向けたスケジュールについて提案がなされた。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

■岩尾別川周辺でのヒグマカメラマン問題について

・法に基づいた規制の適用、アクセスコントロールの再導入を強く求める。

・監視カメラの設置や監視員の配置等の対策について検討願う。

・普及啓発の仕組みとして、ヒグマとの距離の確保に重点を置いて取り組まれているが、岩尾別地区においては、車を止める、降車する、大勢でヒグマを見ることが問題となっているため、そこをもっと強調するような内容にしてはどうか。

・知床としてヒグマを見せるべきなのか、見てはいけないものとして捉えるのか、まだ整理ができてないという認識でおり、地域の会議の中で議論していく必要がある。看板の設置箇所の増加、監視カメラの設置、道路上の待避場所へのバリケードの設置等、警察署も含めて協議を行いながら可能な限り対策を講じていく。

・世界自然遺産登録 20 周年を迎えた機会を活用し、改めて科学委員会から緊急声明をだしてはいかがか。今はマスコミの注目度も高い状態にある。ひどい状況になっていること、緊急事態だということを、科学委員会から声明という形で発出したらよいのではないか。

■次期計画策定に向けた今後の取り組みについて

・知床のヒグマ管理の在り方を示すフレームワーク図については、問題個体管理と個体数管理の二軸の説明を省くことなく、引き続きわかりやすく説明するための方法をご

検討いただきたい。

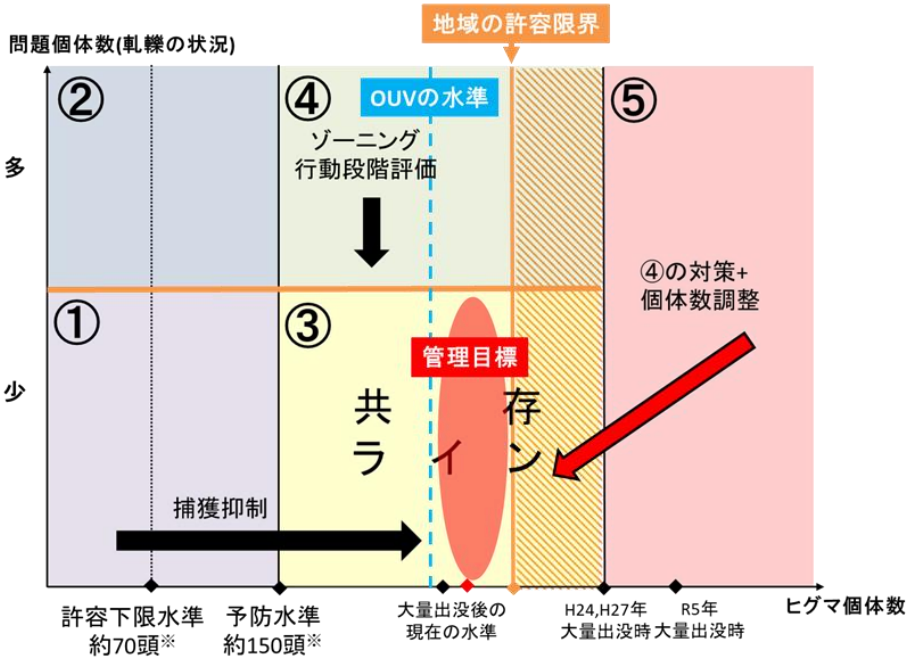
・問題個体は少ないほうがよい一方で、世界遺産であるこの地域で個体群が維持できなくなるような捕獲はできない。さらに、周辺住民の生活や産業に負の影響がでる大量出没のような状況は発生させたくない。この三つのラインの中のどこかに落としどころがあって、それを管理目標として考えている、それが伝わることが一番重要。その三つのラインがどのように引けるかというと、モニタリングが追いついていない現状ではラインを引くこと自体が難しく、知床半島ヒグマ管理計画自体はそういった考え方に基づいて作成されているという概念が伝わればよい。

・目標項目の見直しについて、これは現計画の目標の内容と、とられる対応策といったことについて意見を広く聞くとよい。目標の項目によって聞くべき相手が変わってくる点に留意すべきで、農業被害以外にも漁業活動に関することや、ゾーン４（市街地など）への出没に関することもある。個別に聞き取り調査をする場合、その分野に全く関係・関心のない人に意見を聞いても仕方ないため、可能であればそれぞれの分野やテーマに応じたワークショップなどを開催するとよいのではないか。

３．令和７年度ヒグマ WG に関する今後の予定

第２回ヒグマ WG：令和８年２月（予定）

以上



図．知床のヒグマ管理の考え方を示すフレームワーク